

3. 調査結果の概要

3.1 アンケート結果のまとめ

属性

- ・回答数は全 1,377 件、性別では、男性が 80%を越えておりやや偏りが見られるが、住民説明会や電話帳による無作為抽出で対象者を抽出しており、世帯主が多く回答したことが考えられる。
- ・年齢層では、20 歳代～70 歳代と幅広いが、50 歳代以上が 80%以上を占めており、上記の標本の取り方もその一因と考えられる。
- ・職業は、会社員・公務員を合わせて 30%強であるが、一方で「その他」も 40%程度と高率である。「その他」を種別に集計してみると、無職または年金生活者が最も多い。これは、母集団の年齢層とも関連していると見られる。
- ・現住所は、ほとんど益田市であるが、これは、アンケートの送付対象を益田市内に限ったこと、住民説明会は益田市のみでの開催であることによるものである。
- ・なお、益田市内の地区別でみると、人口の最も集中している下流市街地（高津・須子等）が最も多く、人口比率からみて地域別の回収数は概ね妥当と考えられる。

高津川の治水（洪水対策）に対する認識

- ・被災経験のない人が最も多いが、家屋の浸水や田畑の冠水被害に遭っている人も多い。
- ・これは、昭和 47 年や昭和 58 年等の災害がまだ記憶に残っていることや、近年の内水被害の経験もその理由として考えられる。
- ・被災した流域については、意外に高津川流域は低い。これは、近年最大の災害であった昭和 58 年洪水が、益田川の氾濫によるものであったことも理由の一つとして考えられる。
- ・高津川が安全であると肯定的に捉えている人は少数派である。これは、被災経験のない人（問 5、約 550 名程度）の方が、全体の回答者数（約 1,400 名）より少ないことも背景の一つであろう。
- ・安全であると思う理由は、堤防が高い、護岸が整備されているという意見が多く、「目に見える」河川整備を信頼していることがうかがえる。
- ・危険であると思う理由は、近年各地で見られる集中豪雨を背景として、「予想外の雨」に不安を抱いている人が最も多く、次いで河道内の土砂や樹木を危険物とみなしている人が多い。
- ・このようなことから、洪水に対する取り組みの必要性については、樹木の伐採を挙げる人が最も多く、その他としては河道整備に関して、堤防を高くする、川を掘り下げるといった意見が目立つ。
- ・洪水情報の提供についても、その必要性を認識している人が多いこともわかる。

高津川の水利用や環境に関する意見

- ・現在の高津川の生物にとっての環境については、よい、ややよいと感じている人が多く、「清流高津川」をイメージしている人の多さがうかがえる。
- ・生物にとって悪い、やや悪いと考えている人は、その原因をゴミが多いとする人が最も多いが、木や草が多すぎるという意見もそれに次いでおり、多すぎるこれらの樹木や草本が、必ずしも生物の生息環境の保全に役立っていないと考えている。また、水が少ない、深みがない等の水域環境についても指摘する人が存在する。
- ・風景については、やや満足、満足と考える人の合計は、不満、やや不満という人の合計の概ね2倍弱程度であり、河川の風景に関しては肯定的な捉え方をしている人の方が多い。
- ・不満な理由について尋ねたところ、樹木や草本の多さや、土砂堆積を挙げる人も多く、人為的な影響として、ゴミの多さを指摘している人も多い。
- ・一方、満足な理由については、自然が豊かであるという項目が圧倒的である。河道内の樹木や草本について、見方が両極に分かれていると見ることもできる。
- ・清流高津川として知られており、川に行きたいと思う人が70%近くになっている。母集団に比較的高齢者が多いにもかかわらずこのような高率になったことを考えれば、高津川流域の人は、馴染みのある川への愛着が高いと考えられる。
- ・どのような川なら行きたいか、という設問に対しては、水辺へのふれあいに関わる項目である、水遊びのできる川、水辺へ近づきやすい川への支持が高い。これも高津川への愛着の一つである可能性がある。

地域の防災に関する意見

- ・ハザードマップを知らない人（問15）が約60%存在しているほか、洪水時の避難先を知らない人（問12）も約30%と存在しており、災害対策上これらをさらに周知していく必要がある。
- ・地域防災で最も重要と考えているのは、防災組織の結成と、防災意識の向上を支持する人が多く、防災力を高めるのは、行政と住民が協力して行うことが必要と考える人が約90%近く存在する。このことから、高津川流域では、住民の防災への意識は比較的高いものと推察される。
- ・また、どのような防災情報が知りたいかという質問に対しては、際立って高率となった項目はなく、いずれもそれぞれ重要な情報であると認識していることがうかがえる。

今後の高津川に関する意見

- ・対象を絞った項目で見れば、生命・財産の安全を考えた洪水防止策が重要と考える人が最も多いが、一方で自然環境の保全・再生を挙げる人もそれに次ぐ多さとなっており、美しい高津川を認識していることも背景にあると考えられる。
- ・複数項目の同時選択を許容した場合は、洪水への安全、自然環境の保全、適正な河川利用を両立させた整備を望む声が圧倒的に多く、住民意見を反映して今後の河川整備を進めるにあたっては、これらの適切なバランスを十分考慮した上で行う必要があると言える。

3.2 主要な意見・要望

住民説明会およびアンケート調査において寄せられたいくつかの自由意見を以下に示す。

治水について

- ・田畑、住宅への浸水等増水による被害をなくす対策を要望。特に高津川中上流、白上川、匹見川、内田川、南田川が気になる。川幅がせまかったりするため、水位の急激な上昇も懸念される。まず水位の上昇の仕方を見てもらいたい。
- ・洪水対策として堤防の補強、漏水箇所、無堤箇所の解消、堆積土砂の除去、雑木や雑草の除去、河床掘削を要望する。水の流れをよくして堤防の決壊を防ぎたい。
- ・河川敷や中洲等にかなりの柳、竹、雑木が茂っているところがあるが、川の流れをよくし、防災のためにも伐採整備する必要があるように思う。
- ・洪水に対する安全を最優先に整備をお願いする。
- ・高津川には樹木が生い茂り、又土砂の堆積が多い箇所が多く、これ等を適切に処理すれば水の流れもよく堤防の決壊に対する不安も少なくなると思う。
- ・川床が土砂で上がってくればいくら堤防を上げて行っても天井川になり危険は減らない。川床を定期的に整備するのが一番だと思う。
- ・堤防を上げていっても川床が土砂で上がれば効果が薄いので、川床の点検を最優先する。
- ・整備具合が下流にかたよっているので、直轄管理区域をもっと上流部に拡大するとよい。
- ・現状の安全を考え、河川整備期間の短縮を要望。30年間で10年間程度に。
- ・洪水の確率も50年ではなくて100年に1回、いやそれ以下になるようにしてほしい。
- ・浸水地域に排水ポンプを要望。ただ効果が薄い。

堤防整備について

- ・内水、漏水などで弱体化している堤防を、矢板打ち工事により増強の要望。水位が上がると水が吹き出すところがあり決壊につながる恐れがある。
- ・水辺で親しむことが出来るような整備を要望。
- ・自然環境は守りながら堤防のかさ上げ等を行って防災対策をして欲しい。
- ・堤防に桜の木などを植えて、破堤に強くしたい。
- ・ダムのない川を貫くのであれば堤防の補強をすべき。
- ・場所によっては堤防が低いと感じられる。早急に調査して改善して頂きたい。

自然環境について

- ・清流高津川の名に恥じないような維持の要望。
- ・今の自然環境を破壊せず、共生のできる川を守りつづけて欲しい。
- ・生態系を保護し、アユ、エビ、カニ、うなぎなどの魚介類がたくさん見られ、鳥なども生息できる美しい川に。木枠による魚床を作ってはどうか。川底もテトラより丸石を推奨。
- ・自然にふれあう機会をつくり、川に愛着をもつことによって自然環境の保護にもつながる

のではないか。

- ・瀬や淵を維持し、河川の直線化を防止。
- ・自然環境との調和を考えた対策を行い、市民、全国から愛される、魚の育成なども考慮した河川であって欲しい。

水質・水量について

- ・透明で動植物、魚が生息できるように、川で泳げるように、生活排水の流入を少なくしたい。排水路の整備、下水道の整備、排水の流入を非常時のみに限定する。農業廃水の100%達成を目指したい。
- ・日原、横田のように集落排水を進め、個人は合併槽を推進したい。
- ・水質保全のため放置状態の山林の手入れ。
- ・良い水質をいつまでも保てるようにして欲しい。美しい自然と豊かな水を守っていききたいものである。
- ・高津川は都会の川と違ってとてもきれいである。お陰でとてもおいしい水を飲むことができ、健康の為に環境の良い益田市である。

河川景観について

- ・河原の雑木、竹、雑草を少なくし、美しい自然景観を守りたい。人工的な建造物の設置については十分考慮する必要がある。
- ・地域住民や利用者の意識を喚起したい。ゴミ、缶、ペットボトルが捨てられている。
- ・川の中に繁っている樹木、草、杭に流れついた流木、土砂を除去して景観をよくする。堆積物で生えた草木により川が見えにくく、景観が悪くなっている。
- ・上流は森林保護に留意し、水源の確保、荒廃を防止すること。流域の美化、公園化、清浄化など、もっと河川に愛着が持てる資源開発を要望。
- ・橋の形や色を変え、見た目をよくしたい。
- ・昔見られたコスモスや彼岸花が見られるように。

空間利用について

- ・河川敷に自由に出入りでき、利用しやすいように、除草整備、清掃作業を行う。
- ・遊び場、軽スポーツができる場、遊歩道、サイクリング道路、キャンプ場が作れないだろうか。ただ、河川公園は環境に合わせたものにする必要があるが。
- ・多くの人に気軽に来てもらえるように駐車スペースを設置。
- ・場所によって堤防の通行止めがあるが全て可能にしてほしい。
- ・鮎などのネームバリューを全国に広め、高津川への認識を深める。
- ・カヌー、ボートなどポイントで遊ぶ場所を整備。
- ・せせらぎ広場を利用して市民が参加できる催しを開催するとよい。

- ・散策できる遊歩道があればよい。
- ・ゴミを少なくして、子供達が安心して遊べる所を作ってほしい。
- ・子供達が川原で楽しく遊べる河川整備を願っている。

維持・管理について

- ・堤防の漏水点検をきめ細かく行い、漏れ箇所を早期に改修する。
- ・中州の除去を早急に行い断面の確保。
- ・河川内パトロール。船、カヌーなどで下り、ゴミ、河床状況、隣接構造物の状況を点検。
- ・堤防整備よりも、堆積土の撤去から再資源利用、立木の伐採、草刈り等を効率的に行うことを優先させたい。
- ・きれいに保つ為、子供と年配で交流をもち掃除をしていく。
- ・処理に時間のかかる大量のゴミ・流木をなんとかしてほしい。山林の管理に注意を払ってほしい。
- ・河川敷の土砂を有効に活用し、災害予防につなげることはできないものか。
- ・各自治体で河川清掃を行っているが、主に 65 歳以上の方が草を刈っているのが現状。県、市からの補助金がでていない部分以外の草は、田の所有者が自発的に刈っているが、このままだと川が山林化する危険性がある。思い切った対策が必要だ。
- ・放置状態になっている山林の手入れを行う。

情報提供・防災について

- ・整備計画の一般への説明を要望する。
- ・携帯サイトの水位、雨量の数値の意味が分かるようにしてほしい。
- ・障害者への情報提供。視覚障害の場合には耳から情報を入れてほしい。
- ・避難する時期を確実に知ることの出来るシステムを要望。大雨時防災無線の声が聞こえてこない。各家に防災無線を設置するか、車で放送しながらゆっくり回ってほしい。
- ・ホームページはだれでも見られるわけではないので、専用電話番号（洪水状況速報）等を設置すると、リアルタイムに必要な情報を入手できる。
- ・今の洪水避難所となっている公共施設である西益田小学校、横田中学校は、昔の川跡にあるのでかえって危険なのではないか。
- ・洪水時の雨量、水位情報の提供方法の周知徹底。
- ・飯田地区の住民だが、避難すべきかどうかの判断に迷う。氾濫の恐れがある時は、早めに防災放送やホームページで情報を提供してほしい。
- ・災害に備えての避難訓練に力を入れてほしい。
- ・川の氾濫は自然災害以上に人間の環境破壊の結果でもあり、住民の気持ち、防災意識は個々で持つべきだと思う。

その他：高齢者にとって、インターネットによる情報提供は閲覧手段がなく意味がないという

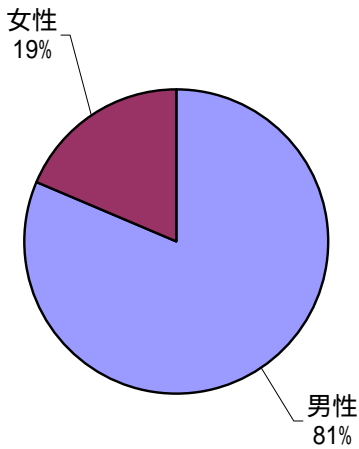
意見も多い。

公共事業としての位置づけ

- ・ アンケートの意見を実際に計画に採り入れてほしい。
- ・ 今後の方針、着眼点などについて広報し、住民が計画について分かるように、そして高津川に関心を持つようにしてほしい。

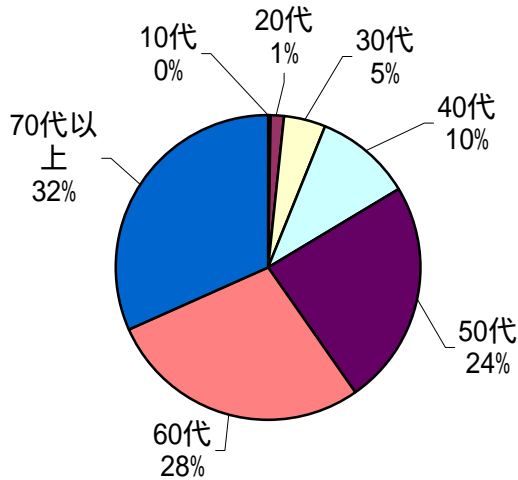
3.3 母集団の個人属性

問1 性別



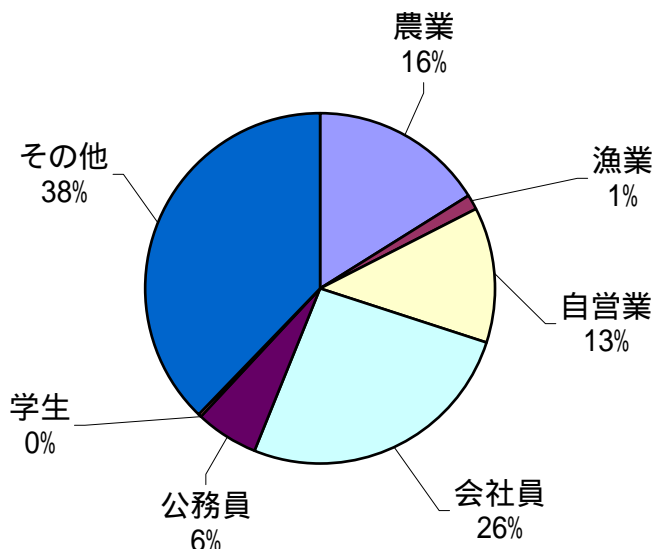
男性が80%程度を占めている。

問2 年齢

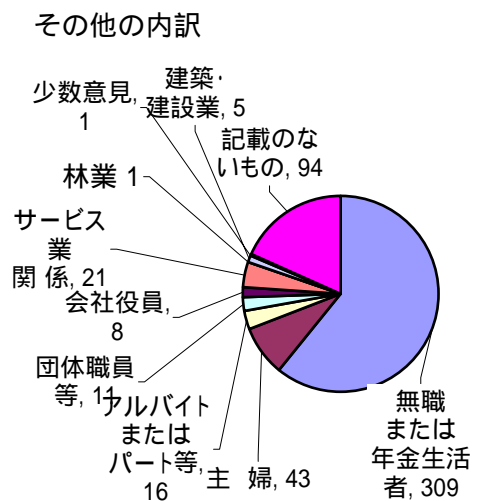


20代～70代以上まで幅広い年齢であるが、50代以上が約80%と、高年齢層が多い。

問3 職業

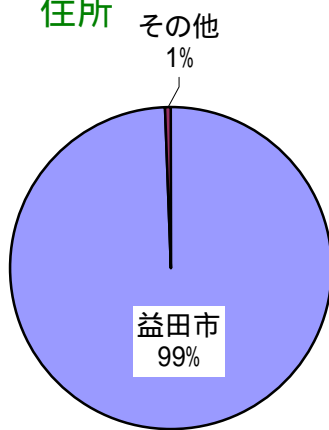


会社員が最も多く、次に農業が多い。



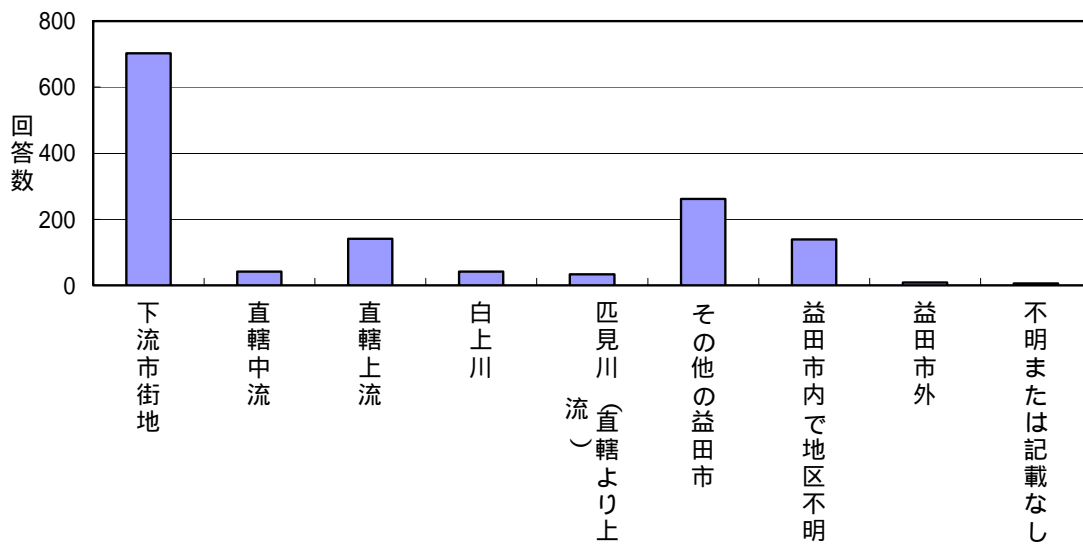
「その他」の中では、年金生活者も多い。

問4 住所



益田市の方がほとんどである。

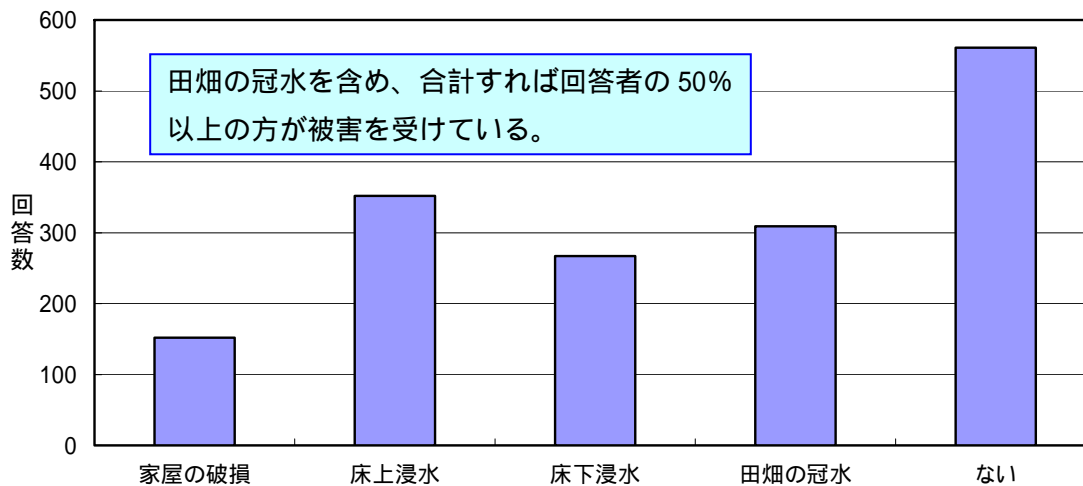
「益田市」の内訳



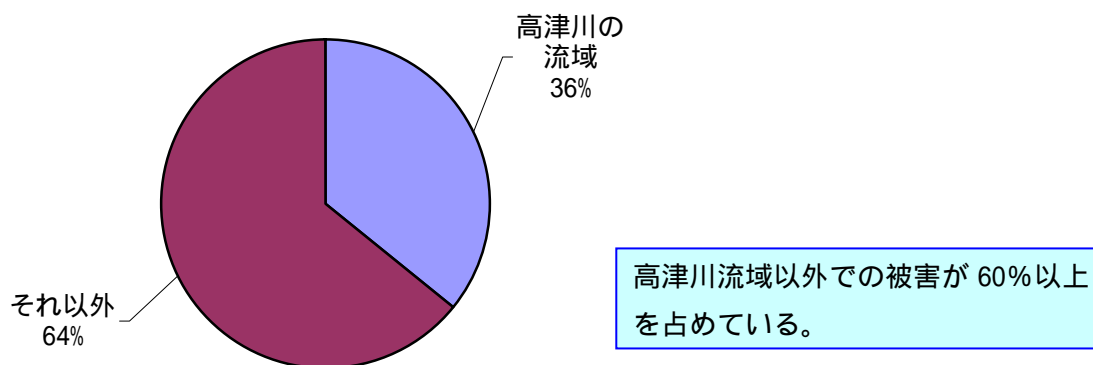
益田市でも、高津川の下流付近在住の方が多い。

3.4 治水対策について

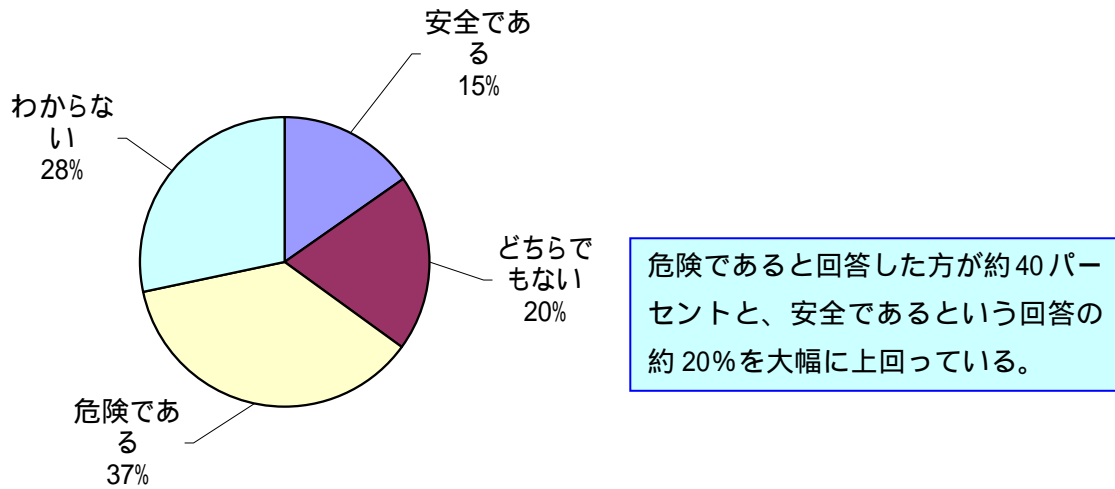
問5 これまでの被害経験



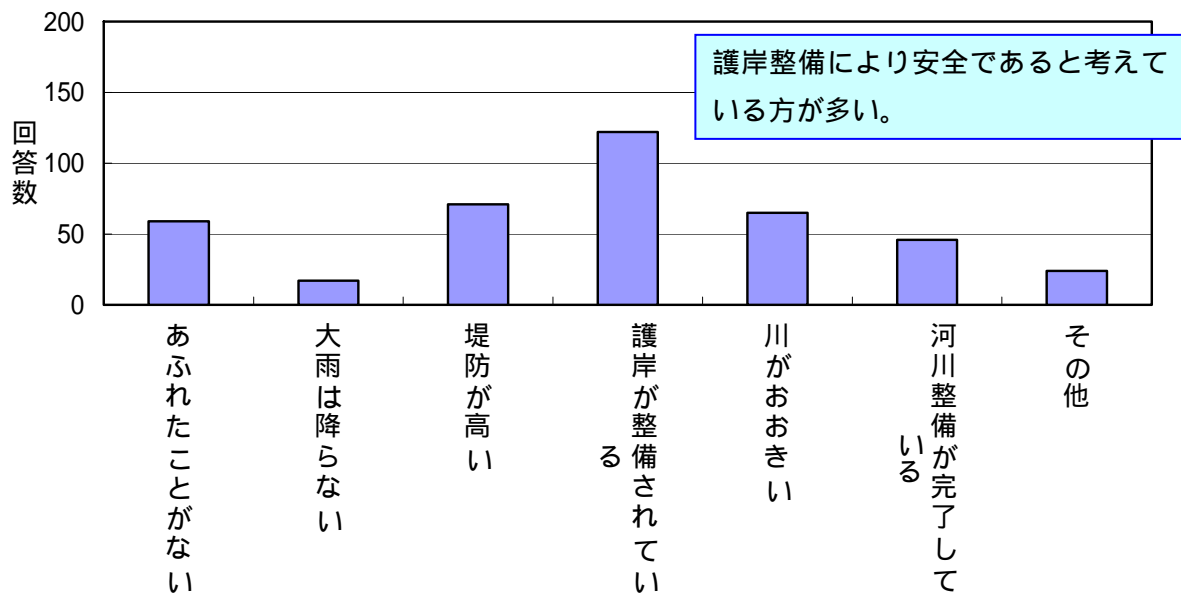
問5 - 1 被害を受けた場所



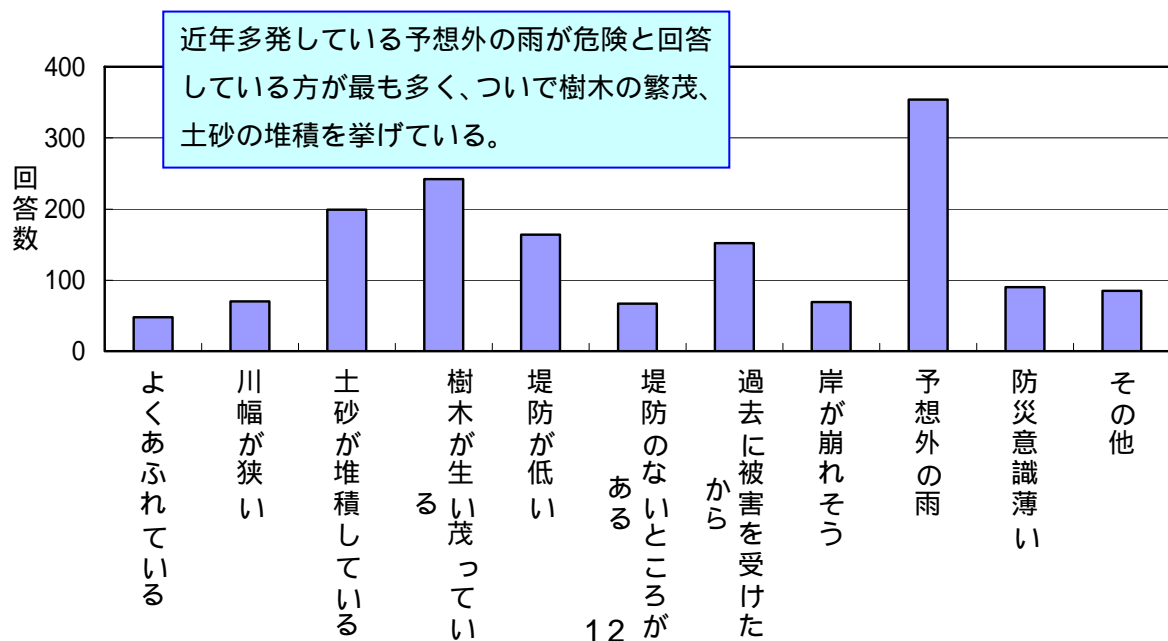
問6 高津川は洪水に対して安全だと思うか



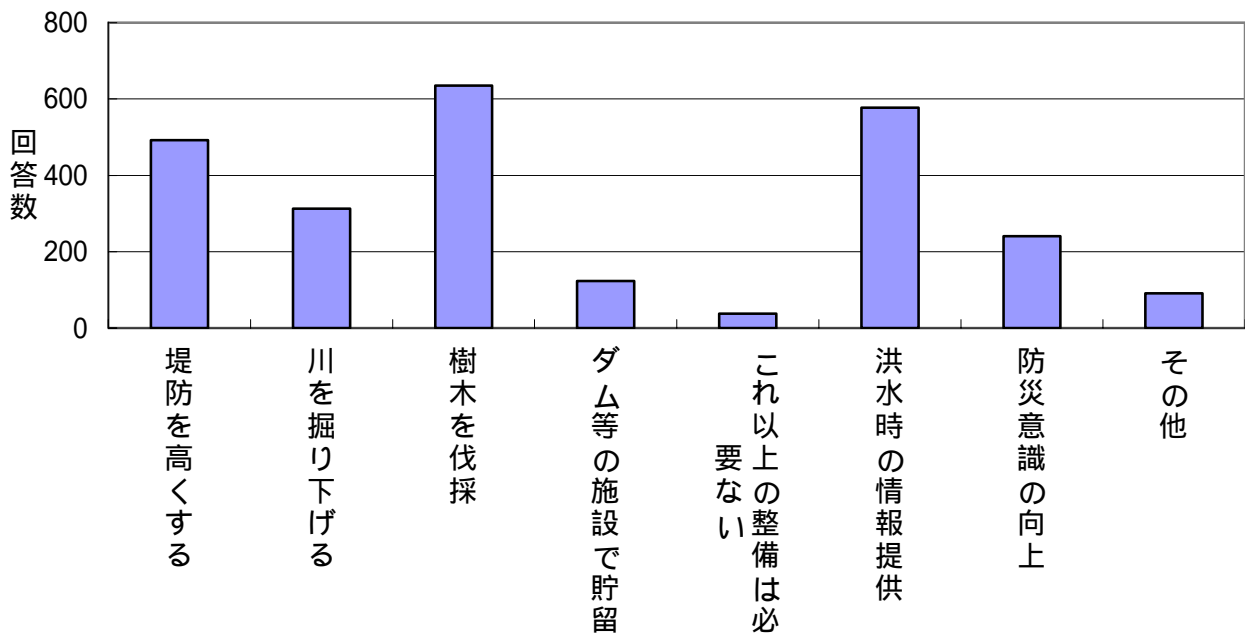
問6-1 (「安全である」と答えた人に)安全であると思う理由



問6-2 (「危険である」と答えた人に)危険であると思う理由



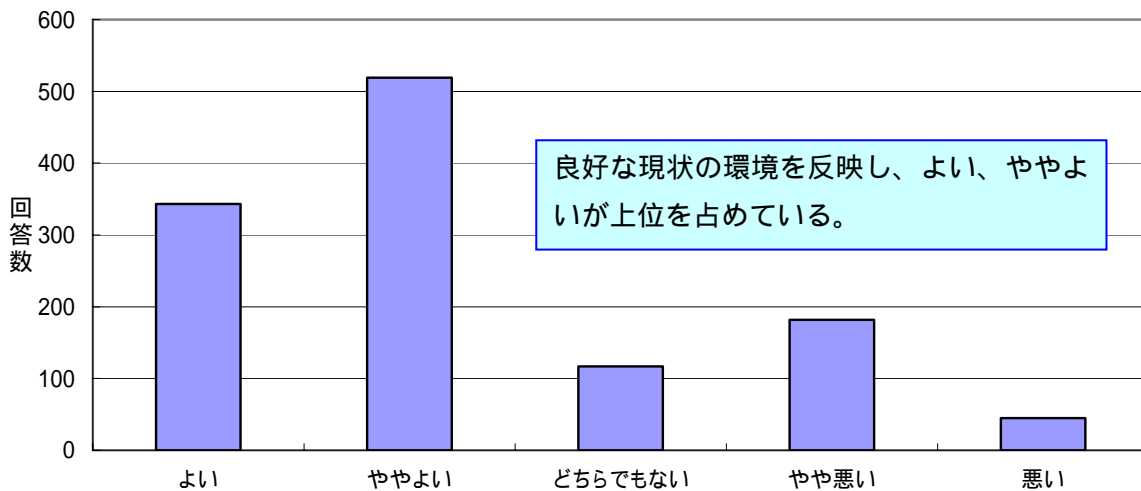
問7 洪水に対する必要な取り組み



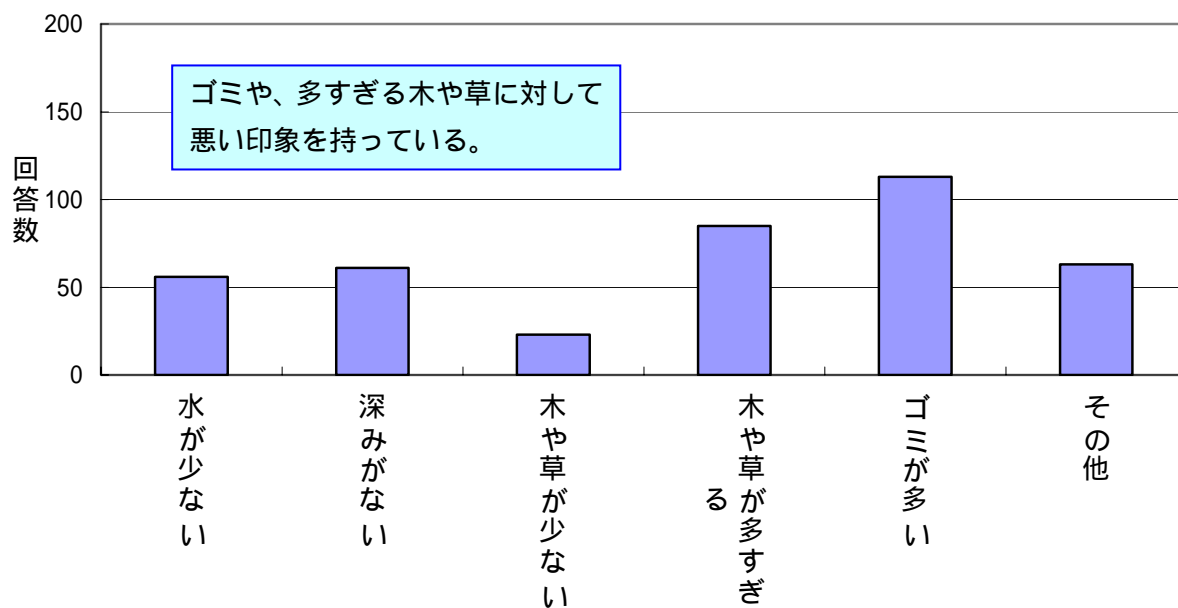
樹木の伐採が最も多く、次に洪水時の情報提供を望む回答が多い。

3.5 河川利用と環境について

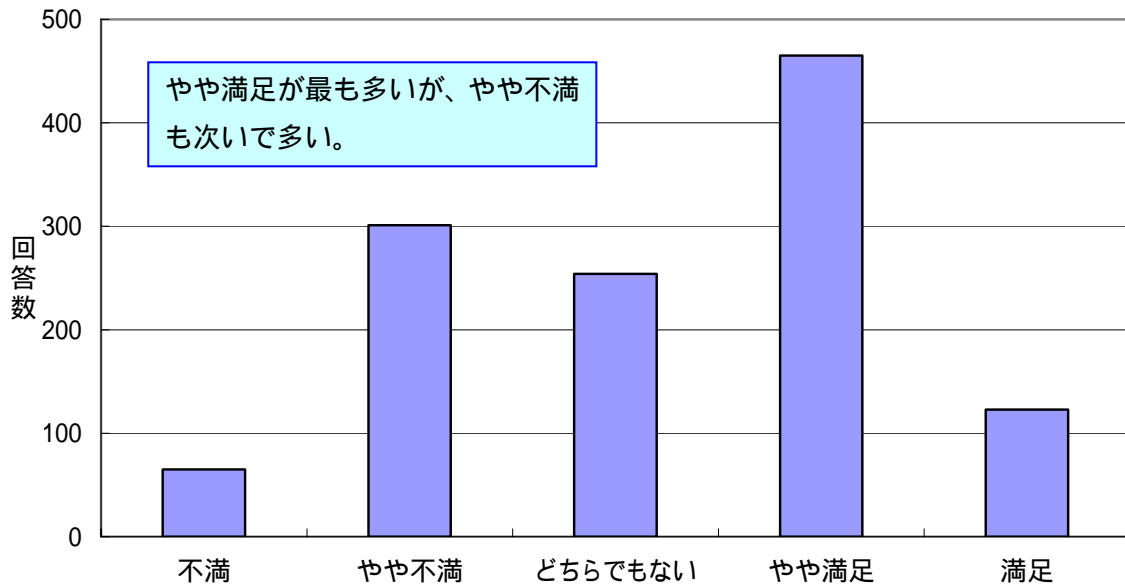
問8 高津川は現在、魚や生き物にとってどのような環境だと思うか



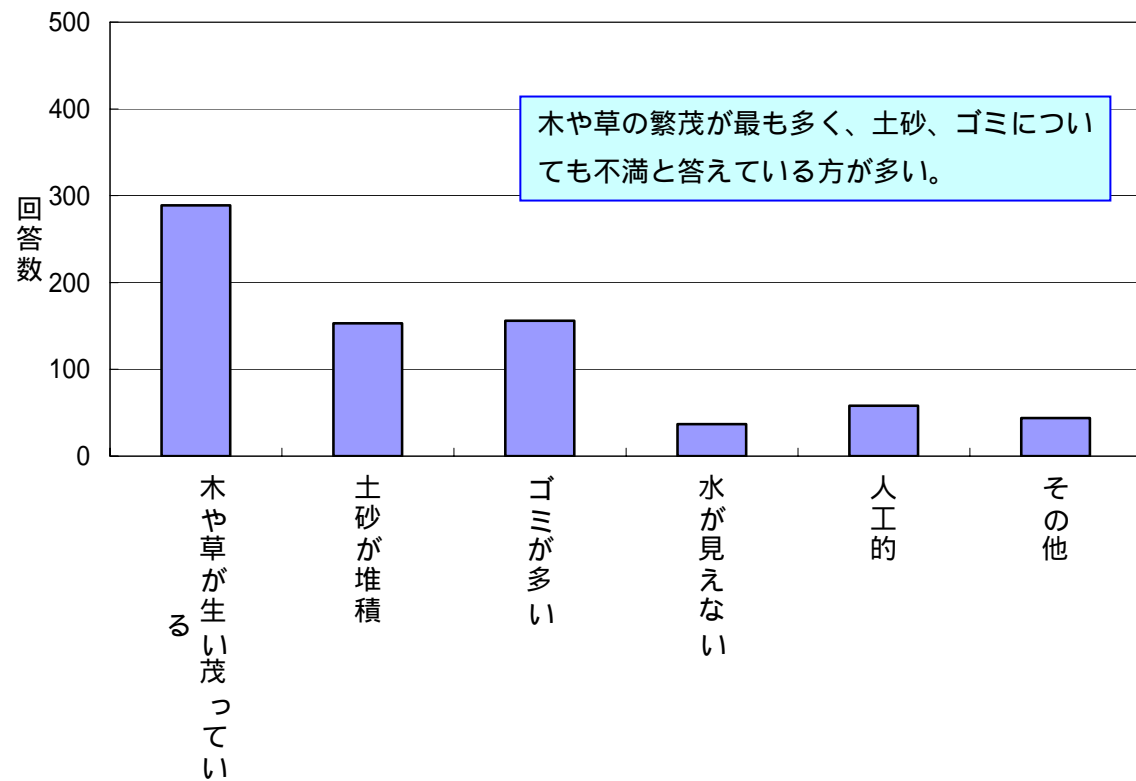
問8 - 1 (「やや悪い」「悪い」と答えた人に) どうして悪いと思うか



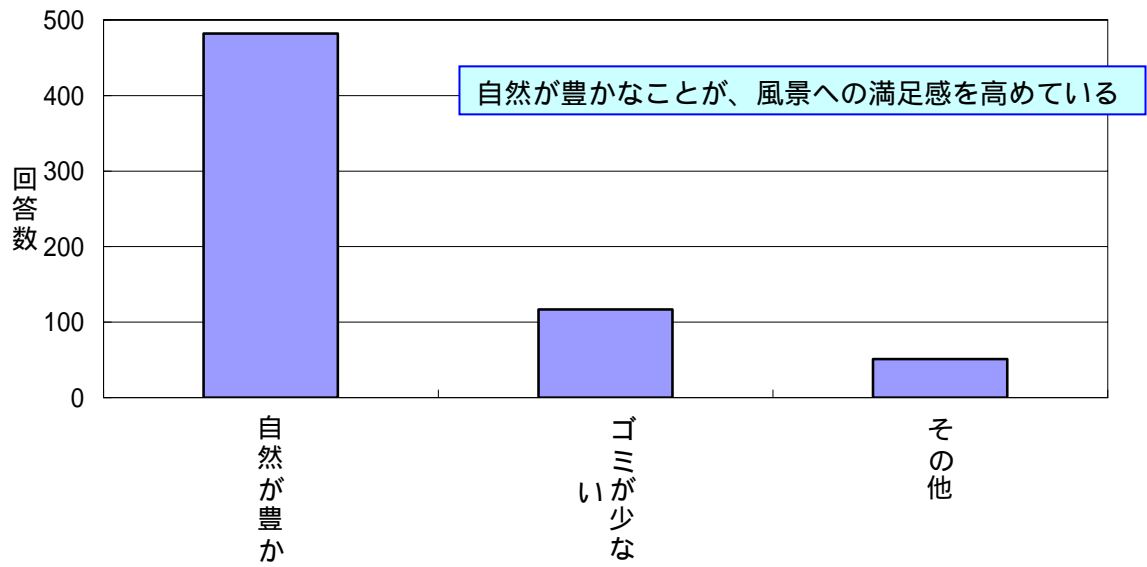
問9 高津川の風景に満足しているか



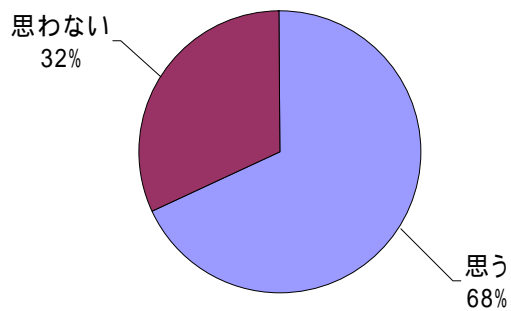
問9 - 1 ((「不満」「やや不満」と答えた人に) どうして不満と思うか



問9 - 2 (「満足」「やや満足」と答えた人に) どうして満足と思うか

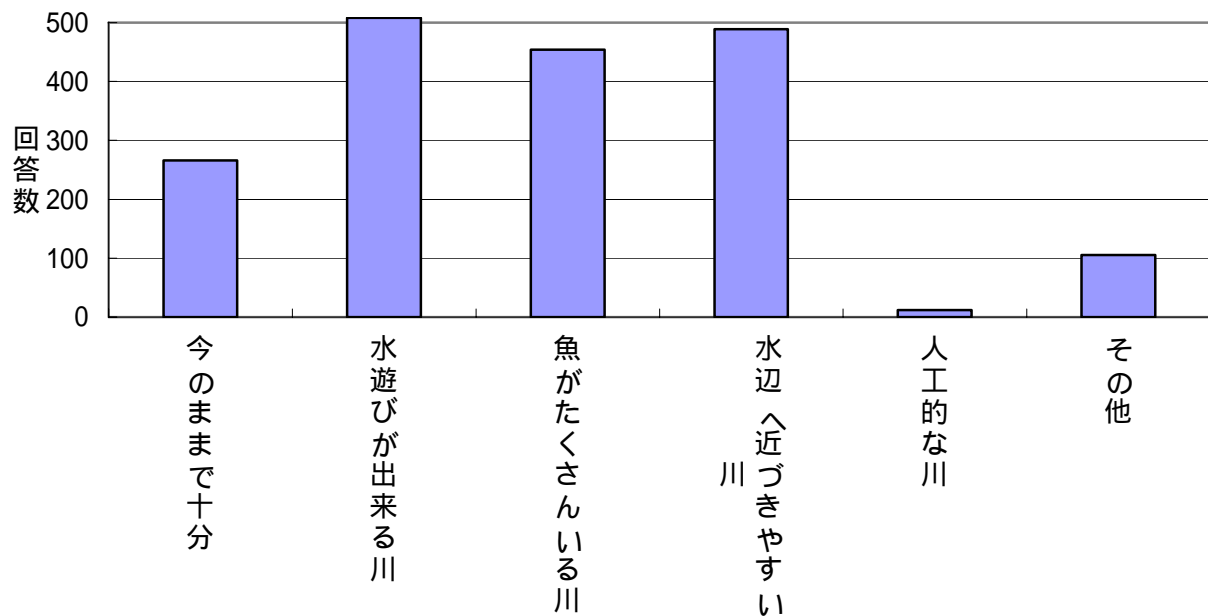


問10 高津川に行きたいと思うか



川に行きたいと思う方が約70%と多い。

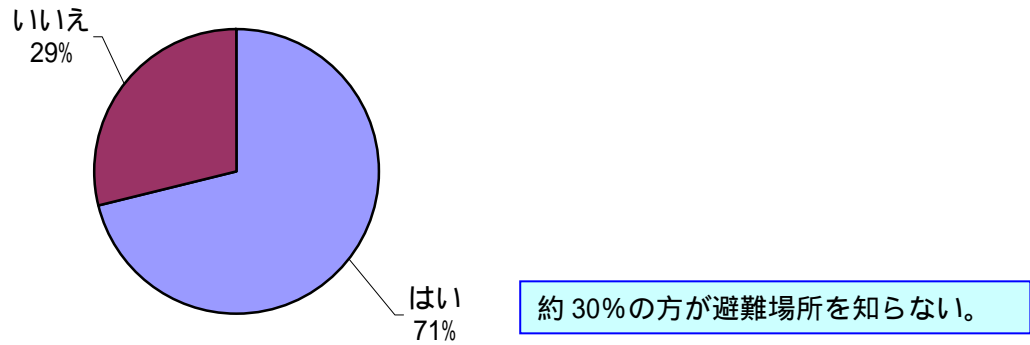
問11 どのような川であれば、行きたいと思うか



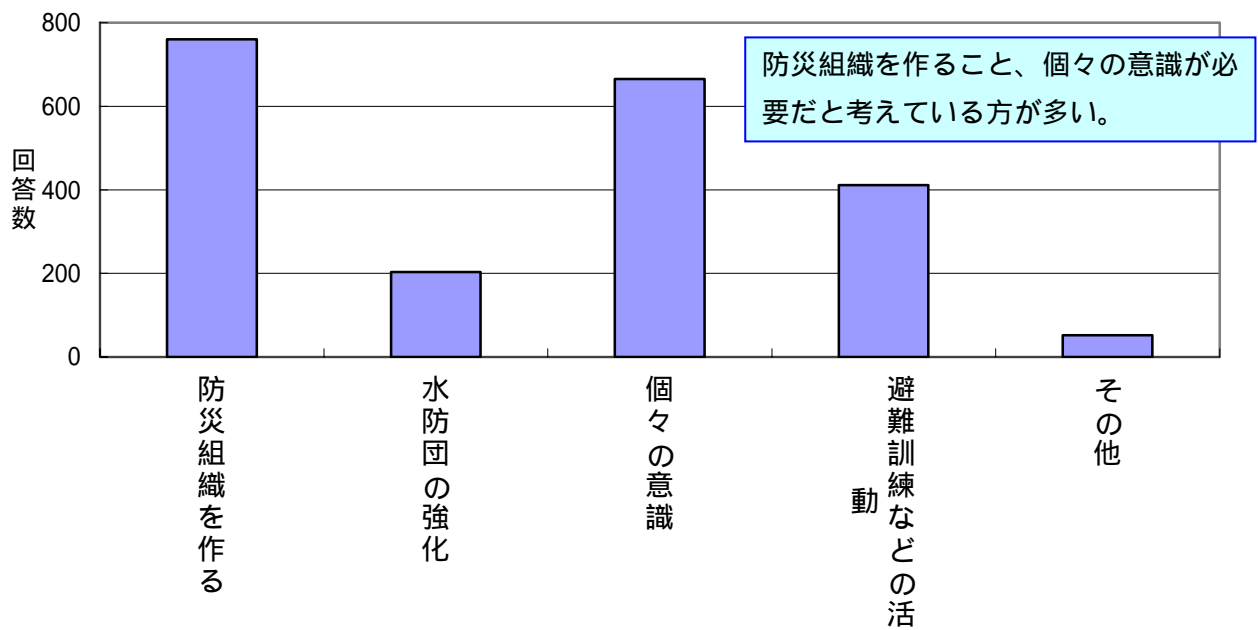
水遊びのできる川が最も多く、次いで水辺へ近づきやすい川、魚の生息する川を望んでいる。

3.6 地域の防災について

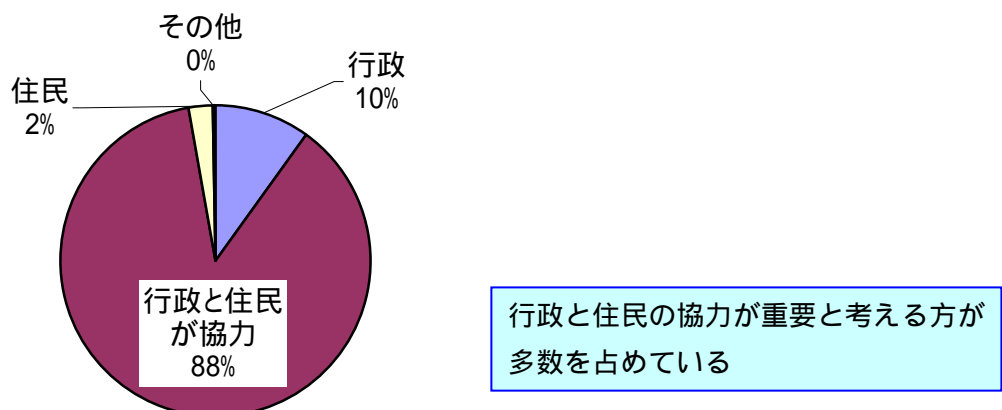
問 1 2 もし河川が氾濫した場合に何処に避難すれば良いか知っているか



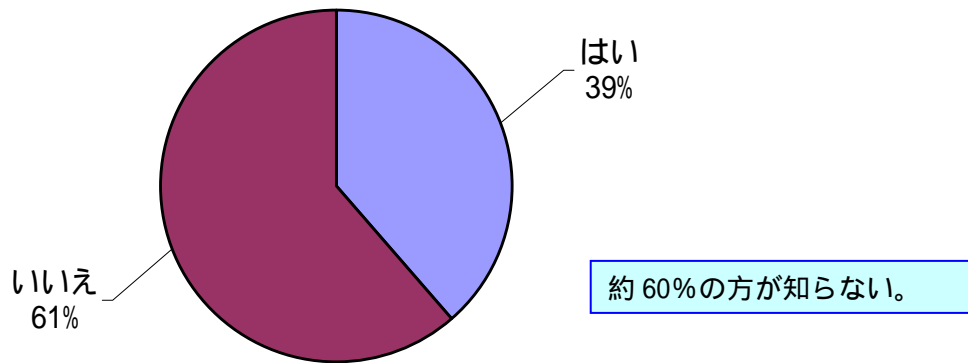
問 1 3 地域での自助共助などの地域防災で何が一番必要と思うか



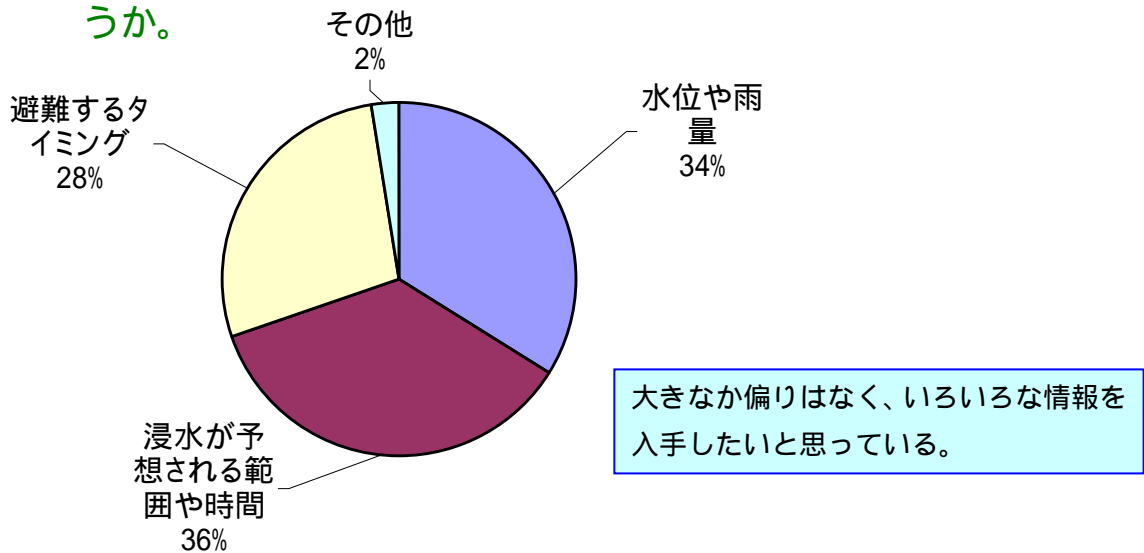
問 1 4 洪水に対する防災力を高めるのは誰がやるべきと思うか



問15 もし河川が氾濫した場合に、予想される浸水範囲や浸水の深さ、避難場所などが示された「洪水ハザードマップ」を知っているか

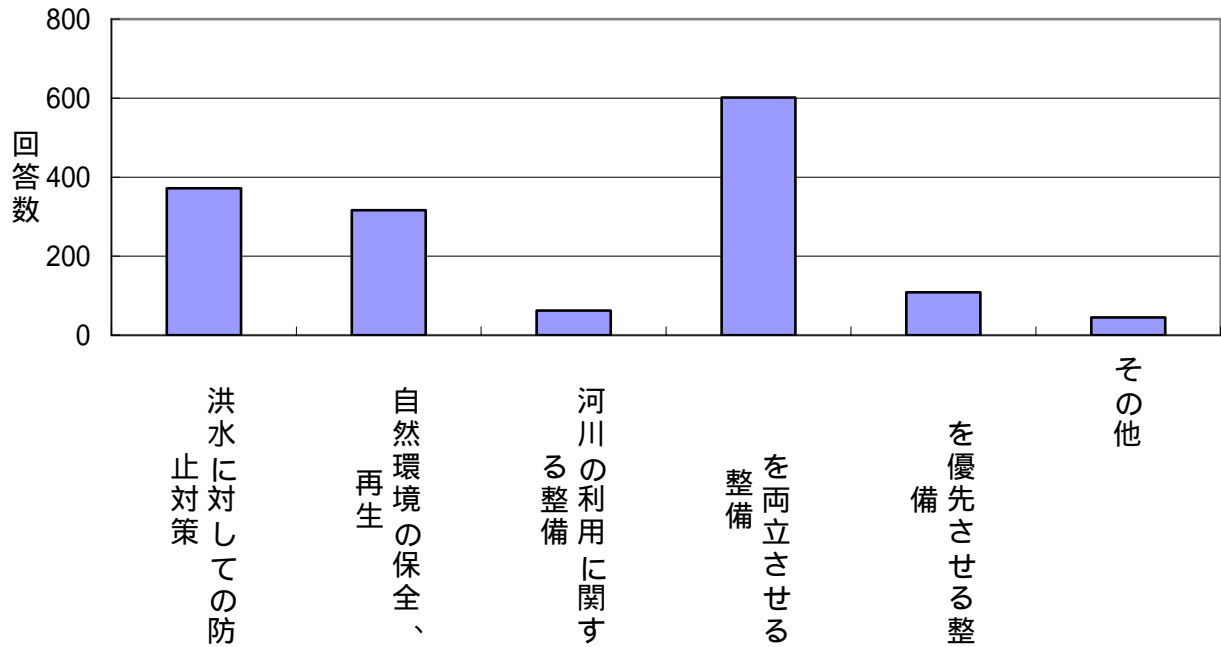


問16 国土交通省では、雨量・水位情報を始めとする防災情報をホームページ等を通じて提供しているが、どのような情報を知りたいと思うか。



3.7 今後の高津川について

問17 今後の高津川の河川整備は、どのように実施していくべきか



洪水、環境、水利用の両立を望む回答が最も多いが、次いで洪水の防止対策が多い。